


動画を撮影する

動画の画質を決める

撮影前に、動画の画質を選びます。動画の画質とは、再生したときの画像のきめ細かさや滑らかさ、美しさを示す目安です。画質を高品位にすると美しく撮影できますが、撮影できる時間は短くなります。

| 画質 | 画素数 | 転送レート | フレームレート |
|-----------|----------------|--------------|------------|
| 高品位-HQ | 640×480 pixels | 約10.2メガビット/秒 | 25フレーム/秒 |
| 標準-Normal | 512×384 pixels | 約6.1メガビット/秒 | 25フレーム/秒 |
| 長時間-LP | 320×240 pixels | 約2.45メガビット/秒 | 12.5フレーム/秒 |

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ 画質”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で希望の画質を選び、【SET】を押す

動画の形式

撮影した動画は、AVI形式、Motion JPEG準拠で記録されます。本機で撮影した動画は、パソコンにコピーして下記のソフトで再生することができます。

- WindowsではWindows Media Player
- MacintoshではQuickTime

動画のサイズ

1分間撮影した動画のファイルサイズは、おおよそ以下のとおりです。

| 画質 | サイズ |
|-----------|---------|
| 高品位-HQ | 約72.8MB |
| 標準-Normal | 約43.6MB |
| 長時間-LP | 約17.5MB |

動画を撮影する(ムービー)


動画とともに音声も記録されます。音声はモノラルです。

1. 撮影モードにして【BS】を押す

2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ ムービー”のシーンを選び、【SET】を押す

液晶モニターに“”が表示されます。

3. シャッターを押して撮影を開始する

- 撮影中は、“”が表示されます。

4. もう一度シャッターを押して撮影を終了する

シャッターを押す前にメモリーがいっぱいになると、撮影は終了します。

- 撮影可能な動画のファイルサイズは、1ファイル最大4GBまでです。これを越えると自動的に撮影は終了します。

撮影可能な残り時間





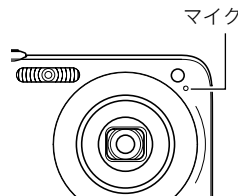
撮影時間

動画撮影時の手ブレ軽減

動画を撮影するとき、手ブレを軽減しながら撮影することができます(61ページ)。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません。また、画角が狭くなります。

動画撮影時のご注意

- フラッシュは使えません。
- 音声も同時に記録されますので、次の点に注意してください。
 - 指などでマイクをふさがないようにください。
 - 録音の対象がカメラから遠くになると、きれいに録音されません。
 - 撮影中にボタン操作をする
と、操作音が録音されることがあります。
- 極端に明るい被写体を撮影しようとする、液晶モニターの画像に、縦に尾を引いたような光の帯が表示される場合があります(スミア現象)が、故障ではありません。この帯は動画にそのまま記録されます。
- 使用するメモリーカードによっては、記録時間がかかるため、コマ落ちする場合があります。このとき、“”と“”が点滅します。このため、最大転送速度が10MB/s以上のメモリーカードの使用をおすすめします。
- 動画撮影中は光学ズームは動作しません。デジタルズームのみ使用できます。シャッターを押す前であれば、光学ズームは使用できます(45ページ)。
- アップで撮影したり、高倍率ズームにしたとき、被写体のブレが目立つため手ブレにご注意ください。三脚を使用することをおすすめします。
- カメラの撮影範囲外ではピントが合わず、ぼけた画像になります。
- 動画は静止画の撮影時に比べ、画角が狭くなります。



撮りたいシーンを選んで撮影する(ベストショット)

逆光で人物を撮影したら顔が黒く写ってしまった、またはサッカーの試合を撮影したら選手の姿がブレて写ったなど、被写体や撮影条件によっては望みどおりの写真が撮れないことがあります。そのようなときは、本機に収録している撮影シーンから、望みのイメージに合ったシーンを選んでみてください。操作は【BS】を押して適切なシーンを選ぶだけです。

■ 撮影シーンの例

- “人物を写します”
- “風景を写します”



- “夜景を写します”
- “人物と夜景を写します”



■ シーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す

ベストショットモードになり、15個のシーン一覧が表示されます。

- 赤枠で囲まれた画像が現在選択されているシーンです。
- 初期状態では“” (オート) が選択されています。



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で枠を移動し、シーンを選ぶ


- 【▲】【▼】を押していくと画面が切り替わり、別のシーン一覧が表示されます。
- ズームレバーを【】または【】にスライドさせると、選んだシーンの説明画面が表示されます。この画面で、どんな設定になるかを確認できます(60ページ)。ズームレバーを【】または【】にスライドさせると一覧に戻ります。
- “オート”での撮影に戻るには、シーン番号1の“” (オート)を選んでください。シーンの一覧またはシーンの説明画面が表示されている状態で【MENU】を押すと、赤枠が“” (オート)へジャンプします。

3. 【SET】を押して、選んだシーンに決める

撮影できる状態に戻ります。

- 別のシーンに切り替えるまで、同じシーンの設定で撮影されます。
- 別のシーンを選び直すには、手順1からの操作を繰り返します。

4. シャッターを押して撮影する

- “ムービー”のシーンを選択した場合は、シャッターで撮影の開始と終了を行います(57ページ)。

重要

- “夜景を写します”、“花火を写します”ではシャッター速度が遅くなります。このシーンでは画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理をしています。このため、撮影が終わるまでの時間がシャッター速度に比べて長くなります。その間はキー操作をしないでください。また、手ブレを防ぐため、三脚の使用をおすすめします。
- 本機にはオークションサイトへの出品物を撮影する“オークション”のシーンを収録しています。このシーンで撮影した画像は専用のフォルダに記録されますので、パソコンで簡単に検索することができます(153ページ)。
- シーンに使用されているサンプル画像は本機で撮影されたものではありません。
- 被写体の条件によっては、十分な効果が得られなかったり、正しく撮影されない場合があります。
- 選んだシーンの設定内容を変更することができますが、シーンを選び直したり、電源を入れ直すと、設定内容は初期状態に戻ります。変更した内容を何度も使いたいときは、カスタム登録してください(60ページ)。

シーンの説明画面での操作

選んだシーンの設定内容を見たいときは、シーン一覧でズームレバーをスライドさせます。

説明画面では、以下の操作ができます。

- 15個表示に戻る:ズームレバーをスライドさせる
- 次の(前の)シーンを表示する:【◀】【▶】を押す
- 表示中のシーンに決めて撮影できる状態に戻る:【SET】を押す

参考

- シーンの説明画面で【SET】を押して撮影できる状態に戻った場合、【BS】を押すと、選んだシーンの説明画面が表示されます。

■ 自分好みの設定をベストショットに登録する(カスタム登録)

うまく撮れた静止画の設定内容をベストショットモードに登録して、同じ設定で撮影することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す



2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“BEST SHOT”(新規登録)のシーンを選び、【SET】を押す

3. 【◀】【▶】で登録したい静止画を選ぶ

4. 【▲】【▼】で“登録”を選び、【SET】を押す

登録したシーンには、“マイベストショット”という名前が付きます。

重要

- 内蔵メモリーをフォーマット(126ページ)すると、カスタム登録したシーンファイルは消えてしまいます。

参考

- 各シーンの設定状態はメニューをたどり、各機能の設定内容を表示させることにより、確認できます。
- 登録したシーン番号は、登録した順にU1、U2…となりません。
- 登録される設定内容は下記の通りです。
フォーカスモード、EVシフト、ホワイトバランス、フラッシュモード、ISO感度、測光方式、フラッシュ光量、フラッシュアシスト、フィルター、シャープネス、彩度、コントラスト
- あらかじめカメラに収録されているシーン以外に、最大999件まで登録できます。
- カスタム登録したシーンは、内蔵メモリー内の「SCENE」フォルダに保存されます(153ページ)。

マイベストショットを削除する

自分で登録(カスタム登録)したマイベストショットは以下の手順で削除することができます。

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. ズームレバーをスライドさせて、説明画面を表示させる
3. 【◀】【▶】で削除したいマイベストショットを選ぶ
4. 【▼】(📷)を押す
5. 【▲】【▼】で“解除”を選び、【SET】を押す
選択したマイベストショットが削除され、次のシーン(マイベストショットまたは新規登録)が表示されます。
6. 【◀】【▶】で別のシーンを選び、【SET】を押す
 - 撮影できる状態に戻ります。

手ブレや被写体ブレを軽減する

遠くの被写体を望遠で撮影したり、動きの速い被写体を撮影したり、薄暗い場所で撮影したりするときに画像がぼやけたり流れて見えることがあります。これはシャッターを押すときにカメラが動いたり(手ブレ)、被写体の動きが速すぎる(被写体ブレ)ことが原因です。ブレ軽減の機能を使って、このようなブレを少なくすることができます。

次のどちらかの操作でブレ軽減の機能を選んでください。

■ ベストショットから選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“ブレ軽減”のシーンを選び、【SET】を押す
次に別のシーンを選ぶまで“ブレ軽減”のシーン設定で静止画撮影できます。


■ 操作パネルから選ぶ

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で上から5番目の項目(ブレ軽減)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“オート”を選び、【SET】を押す
 - ブレ軽減撮影に設定すると、液晶モニターに“📷”が表示されます。
ブレ軽減の機能を使わないときは、ここで“切”を選びます。

参考

- **【MENU】**を押してメニュー画面を表示し、ブレ軽減を設定することもできます(34、159ページ)。

重要

- ISO感度を「オート」にしていないと、ブレ軽減の機能が働きません(78ページ)。
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、ブレ軽減アイコン“”は表示されていますが、ブレ軽減機能は働きません。
- ブレ軽減で撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感が劣る場合があります。
- 手ブレや被写体ブレが大きい場合、ブレを軽減できない場合があります。
- 動画を撮影するときも、手ブレを軽減しながら撮影することができます。ただし、ブレ軽減できるのは手ブレだけで、被写体ブレには効果がありません(57ページ)。
- シャッター速度が遅くなる撮影をすると、手ブレによるブレを軽減できない場合があります。その場合は、三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

フラッシュなしで明るく撮影する

暗い場所で撮影するとき、カメラの感度を上げることにより、フラッシュを使わなくても画像が暗くなるのを防ぐことができます。



通常の撮影
(フラッシュ発光時)



感度を上げた撮影

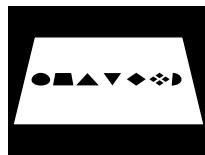
1. 撮影モードにして**【BS】**を押す
2. **【▲】【▼】【◀】【▶】**で“高感度”のシーンを選び、**【SET】**を押す
3. シャッターを押して撮影する
次に別のシーンを選ぶまで“高感度”のシーン設定で撮影できます。

重要

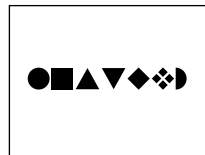
- フラッシュが自動で発光した、または強制発光やソフト発光に設定した場合、高感度撮影機能は働きません。
- “高感度”のシーンで撮影した画像は、多少ざらついた感じがしたり解像感がやや劣る場合があります。
- 極端に暗い環境では、思ったように明るく撮影できない場合があります。
- シャッター速度が遅くなる撮影をする場合、手ブレを防ぐために三脚を使用してください。
- 撮影時の明るさに応じて、撮影した画像にノイズが発生するため、自動的にノイズ低減処理を行う場合があります。この場合、撮影が終了するまでの時間が長くなります。

名刺や書類などを撮影する(ビジネスショット)

名刺や書類、ホワイトボードなどの撮影時に、撮影の立ち位置の都合によって正面からは撮影できない場合があります。ビジネスショットのシーンを選べば、斜めから撮影した画像を正面から撮影したかのように補正して撮影することができます。



補正処理前



補正処理後

ベストショットに2つのビジネスショットのシーンが用意されています。

- “名刺や書類を写します”
- “ホワイトボードなどを写します”



■ ビジネスショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“名刺や書類を写します”または“ホワイトボードなどを写します”のシーンを選び、【SET】を押す

次に別のシーンを選ぶまでビジネスショットでの撮影ができます。

■ ビジネスショットで撮影する

1. ビジネスショットのシーンを選んだ後、シャッターを押す

補正確認画面が表示されます。

赤い枠内が補正される領域です。黒い枠が表示される場

合、黒い枠は別の補正領域候補を示しています。別の補正領域候補が表示されない場合は手順3に進んでください。

- 補正候補が検出できない場合は、補正確認画面が表示されず、「この画像は補正できませんでした」というメッセージが表示されます。その後、補正されずに画像が保存されます。



2. 【◀】【▶】で補正領域を選ぶ

3. 【▲】【▼】で“補正”を選び、【SET】を押す

補正された画像が保存されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

★ 重要

- 被写体が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。被写体が液晶モニターからはみ出すと補正できません。
- 被写体と背景が同色の場合、補正できません。被写体と背景の境界がはっきりするような構図で撮影してください。
- ビジネスショットで撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- ビジネスショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。

古く色あせた写真を蘇らせる (よみがえりショット)

古く色あせた写真を撮影し、あせた色を補正することにより、古い写真を最新のデジタル写真として蘇らせることができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する前に

- 写真が液晶モニターに収まるような構図で撮影してください。
- 写真と背景の境界がはっきりするような構図で、できるだけ画面いっぱいに撮影してください。
- 写真表面に光の反射が写り込まないように撮影してください。
- 縦向きで撮影された写真は、必ず写真が横向き(横長の状態)になるような構図で撮影してください。

■ 参考

- 写真の撮影時に、被写体に対してカメラが傾いていると、「台形歪み」(長方形の被写体が遠近の関係で台形として写ってしまう状態)が生じます。本機は写真の輪郭を検出し、画像を自動的に補正するため、撮影時の多少の台形歪みを気にする必要はありません。

■ よみがえりショットのシーンを選ぶ

1. 撮影モードにして【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“古い写真を写します”のシーンを選び、【SET】を押す
次に別のシーンを選ぶまで“古い写真を写します”のシーン設定で撮影ができます。

■ よみがえりショット機能で撮影する

1. シャッターを押して、写真を撮影する
 - 写真の輪郭確認画面を表示し、続けて撮影した元画像を保存します。ただし、写真の輪郭が検出できない場合は輪郭確認画面が表示されず、エラーメッセージが表示されます(170ページ)。
2. 【◀】【▶】で輪郭候補を選ぶ



3. 【▲】【▼】で“決定”を選び、【SET】を押す

画像の一部を切り抜く操作(トリミング)に入り、液晶モニターに画像を切り抜くための枠が表示されます。

- 補正せずに保存するときは、“キャンセル”を選びます。

4. ズームレバーをスライドさせて枠を拡大／縮小し、補正する画像の大きさを決める



5. 【▲】【▼】【◀】【▶】で切り抜きたい部分に枠を移動して補正する画像の位置を決め、【SET】を押す

あせた色を自動的に補正し、画像を保存します。

- 画像の周囲に余白を付けたくない場合は、撮影した写真よりも補正画像を小さく指定してください。
- 【MENU】を押すと色の補正を中止し、撮影した元画像を保存します。

重要

- よみがえりショット機能で撮影中は、デジタルズームは使用できません。光学ズームのみ使用できます。
- 下記の場合は、撮影した写真の認識ができません。
 - － 撮影した写真が液晶モニターからはみ出した場合
 - － 写真と背景が同色の場合
- よみがえりショットでは、大きな撮影サイズに設定しても2M(1600×1200 pixels)の画像として撮影されます。ただし、撮影サイズの設定が2M(1600×1200 pixels)よりも小さい場合には、設定されている通りのサイズで撮影されます。
- 写真の退色具合により、補正の効果が表れない場合があります。

複数の写真を組み合わせて撮影する (レイアウトショット機能)

複数のフレーム毎に撮影を行い、最終的にレイアウトした画像のみを記録する機能です。

- レイアウトショット
(2枚撮影)
- レイアウトショット
(3枚撮影)



1. 撮影モードにして、**[BS]**を押す
2. **[▲][▼][◀][▶]**で“レイアウトショット”(2枚撮影)または“レイアウトショット”(3枚撮影)を選び、**[SET]**を押す
3. **[◀][▶]**で背景の色を変える

4. シャッターを押して撮影する

1枚目を撮影し終わると、次の写真が撮影できる状態になりますので、2枚目以降も同様にシャッターを押して撮影してください。

- 撮影中に**[SET]**を押すと、配置されている状態の画面と現在撮影している画像のみ画面を切り替えることができます。
- **[MENU]**を押すと撮影済みの画像が消え、1枚目の撮影に戻ります。
- レイアウト上のすべての写真を撮影しないと、写真は保存されません。



フレーム

★ 重要

- 保存される画像は、レイアウトされた画像のみです。
- 画像サイズは自動的に7M(3072×2304 pixels)に固定され、保存されます。
- ISO感度は“オート”に、AFエリアは“スポット”に自動的に固定されます。
- レイアウトショットでは、下記の機能が使用できません。
 - － デジタルズーム
 - － セルフタイマー
 - － 通常連写、高速連写、フラッシュ連写、ズーム連写

被写体を自動的に追従して撮影する (オートフレーミング機能)

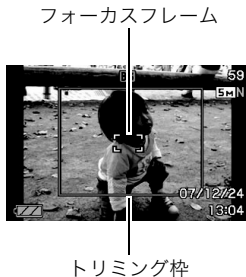
動きのある被写体に追従し、被写体がある写真の撮ることが出来ます。

1. 撮影モードにして、【BS】を押す
2. 【▲】【▼】【◀】【▶】で“オートフレーミング”を選び、【SET】を押す

3. 撮影したい被写体にフォーカスフレームを合わせてシャッターを半押ししたままにする

フォーカスフレームとトリミング枠が被写体の動きに追従します。

- シャッターを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。



4. シャッターを全押しして撮影する
トリミング枠で囲まれた部分のみ保存されます。

重要

- 保存される画像はトリミング枠で囲まれた部分のみです。
- 画像サイズは自動的に5M(2560×1920 pixels)に固定され、保存されます。
- オートフレーミングでは、下記の機能が使用できません。
 - タイムスタンプ
 - セルフタイマー
 - 通常連写、高速連写、フラッシュ連写
- 動きの速い被写体には、正しく追従しないことがあります。その場合は、シャッターの半押しをやめ、再度撮影したい被写体にフォーカスフレームを合わせ直してシャッターを半押ししてください。
- “オートフレーミング”では、画像サイズが“5M(2560×1920 pixels)”になりますが、画像に劣化が生じない範囲は、3倍となります(46ページ)。

よりよい撮影のための設定

ピントの合わせかたを変える

ピント合わせの方法には、以下の5種類があります。これらをフォーカスモードといいます。最初はオートフォーカスモードが選択されています。

| フォーカスモード | 説明 | ピントが合う距離* | | | | | | |
|----------------------|---|---|---------|----|----|---------|----|---------|
| AF オートフォーカス | シャッター半押しで自動的にピントが合います。オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。 | 自動調整 (約40cm~∞(無限遠)) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。 | | | | | | |
| MV マクロ(接写) | 近くのを撮影するときに使用します。動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。 | 自動調整 (約10cm~約50cm) ● 最短距離は光学ズームの位置で変わります。 | | | | | | |
| PF パンフォーカス | パンフォーカスモードは、動画撮影時のみ使用できます。比較的広い範囲にピントが合うように固定されます。オートフォーカスが難しい状況に使用します。 | 距離固定 ● ピントの合う範囲は光学ズームの位置で変わります。 | | | | | | |
| ∞ 無限遠 | ピントは無限遠に固定されます。景色などの遠景の撮影に使用します。 | 無限遠 | | | | | | |
| MF マニュアルフォーカス | 手動でピントを合わせることができます。 | ● ピントを合わせることができる範囲は光学ズームの倍率で変わります。 <table border="1"><thead><tr><th>光学ズーム倍率</th><th>範囲</th></tr></thead><tbody><tr><td>1倍</td><td>約10cm~∞</td></tr><tr><td>3倍</td><td>約50cm~∞</td></tr></tbody></table> | 光学ズーム倍率 | 範囲 | 1倍 | 約10cm~∞ | 3倍 | 約50cm~∞ |
| 光学ズーム倍率 | 範囲 | | | | | | | |
| 1倍 | 約10cm~∞ | | | | | | | |
| 3倍 | 約50cm~∞ | | | | | | | |

*ピントが合う距離はレンズの表面からの距離です。

フォーカスモードは次の手順で変えます。

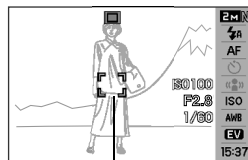
1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で上から3番目の項目(フォーカス方式)を選ぶ
3. 【▲】【▼】でフォーカス方式を選び、【SET】を押す
液晶モニターに、設定したフォーカスモードが表示されます。
 - 各フォーカスモードでの撮影方法は次の項以降で説明します。

フォーカスモードのアイコン



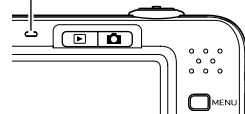
自動でピントを合わせる(オートフォーカス)

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームの中に入れて、シャッターを半押しする
ピント合わせが行われます。
ピントが合ったかどうかは動作確認用ランプとフォーカスフレームの点灯のしかたによって分かります。



フォーカスフレーム

動作確認用ランプ



| 状況 | 動作確認用ランプ | フォーカスフレーム |
|------------|----------|-----------|
| ピント合わせ完了 | 緑点灯 | 緑点灯 |
| ピント合わせできない | 緑点滅 | 赤点灯 |

2. シャッターを全押しして撮影する

重要

- オートフォーカスモードは動画撮影時は使用できません。自動的にパンフォーカスモードになります。

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、フォーカス方式を変更することもできます(34、159ページ)。
- 被写体がオートフォーカスの範囲よりも近距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にマクロの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- オートフォーカス撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例:AF ○○ cm - ∞
※○○には数字が入ります。

近くを撮影する(マクロ)

- シャッターを半押ししてピントを合わせる
ピントの合わせかたはオートフォーカスモードと同じです。
- シャッターを全押しして撮影する

重要

- マクロ(接写)でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がレンズ部にさえぎられて、画像にレンズ部の影が映し込まれることがあります。
- 動画撮影時のマクロモードは固定焦点となります。

参考

- 被写体がマクロの範囲より遠距離にあり、ピントが合わない場合には、自動的にオートフォーカスの範囲までピント調整します(オートマクロ)。
- マクロ(接写)撮影時に光学ズームを行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。
例:○○ cm - ○○ cm
※○○には数字が入ります。

オートフォーカス/マクロモードでの撮影テクニック

オートフォーカスの測定範囲(AFエリア)を変える

オートフォーカス(AF)の測定範囲を変更することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“AFエリア”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

【●】 スポット：

中央のごく狭い部分を測定します。フォーカスロック(73ページ)を活用した撮影に便利です。

【田】 マルチ：

シャッターを半押しすると、9つの測距点の中から、カメラが自動的に最適な測距点を選びます。ピントが合ったと判断された複数の点が同時に緑色で点灯表示します。

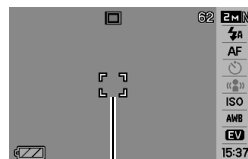
【追】 追尾：

シャッターを半押しすると、ピントを被写体に合わせるとともに、被写体の動きに合わせてフォーカスフレームが追尾します。

参考

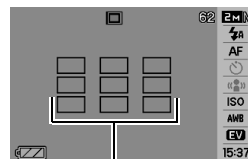
- “【田】 マルチ”に設定すると、9つのフォーカスフレームが表示されます。シャッターを半押しすると、ピントが合った場所のフォーカスフレームが緑色で表示されます。

“【●】 スポット” “【追】 追尾”の場合



フォーカスフレーム

“【田】 マルチ”の場合



フォーカスフレーム

重要

- “【追】 追尾”に設定すると、次の機能が使用できません。
 - － セルフタイマー
 - － 通常連写、高速連写、フラッシュ連写、ズーム連写

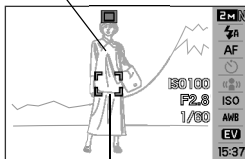
フォーカスロック

フォーカスフレームに入らない被写体にピントを合わせて撮影したいときは、フォーカスロックというテクニックを使います。

- AFエリアは、“**[L]** スポット”または“**[AF-ON]** 追尾”にしておきます。

1. ピントを合わせたい被写体をフォーカスフレームに入れて、シャッターを半押しする

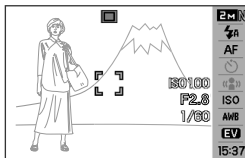
ピントを合わせたい被写体



フォーカスフレーム

2. シャッターを半押ししたまま、撮影したい構図を決める

- AFエリアを“**[L]** 追尾”にした場合は、被写体と一緒にフォーカスフレームが動きます。



3. シャッターを全押しして撮影する

参考

- フォーカスロックと同時に露出(AE)もロックされます。

クイックシャッター

クイックシャッター機能を使うと、シャッター半押しによるオートフォーカスが完了する前にシャッターを全押しすることで、通常のオートフォーカスよりはるかに高速でピントを合わせて撮影することができます。シャッターチャンスを逃さずに撮影することができます。

- 正確にピントが合わない場合があります。

1. 撮影モードにして**[MENU]**を押す
2. “撮影設定”タブ→“クイックシャッター”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲]****[▼]**で設定内容を選び、**[SET]**を押す
入:クイックシャッターが機能します。
切:クイックシャッターが機能しません。
4. シャッターを一気に押し込んで撮影する
シャッター半押しを省略した場合、通常のオートフォーカスを作動せずにクイックシャッターで撮影されます。

ピントを固定して撮影する(パンフォーカス)

パンフォーカスモードは、動画撮影時のみ使用できます。パンフォーカスモードでは、比較的広い範囲にピントが合うように調整されるので、オートフォーカス動作は行われません。

1. シャッターを全押しして撮影する

遠くを撮影する(無限遠)

∞(無限遠)にピントが固定されます。景色など遠景を撮影するときに使用します。車や列車の窓越しなど、オートフォーカスが難しいところからの景色の撮影にも活用できます。

1. シャッターを押して撮影する

手動でピントを合わせる(マニュアルフォーカス)

被写体を拡大表示させた状態で、手動でピント調整ができます。走ってくる列車などを撮影するときに便利です。あらかじめ列車の通過点の目標物(電柱など)に手動で合わせておくことで、ピント合わせの操作をせずに素早く撮影ができます。

1. ピントを合わせたい被写体を黄色枠に入れる

2. 液晶モニターを見ながら【◀】【▶】でピントを合わせる

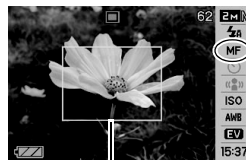
このとき、ピント合わせがしやすいように拡大表示になります。

【◀】:近い側にピントを合わせる

【▶】:遠い側にピントを合わせる

- 約2秒間操作をしないと、手順1の画面に戻ります。

3. シャッターを押して撮影する



ピント合わせの黄色枠

参考

- マニュアルフォーカス撮影時に光学ズーム(45ページ)を行うと、画面上に下記のような撮影可能な距離の範囲が表示されます。

例:MF ○○ cm - ∞

※○○には数字が入ります。

重要

- マニュアルフォーカスを選択しているとき、キーカスタマイズ機能で設定した【◀】【▶】の設定は使用できません(84ページ)。

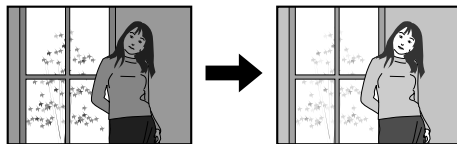
明るさを補正する(EVシフト)

撮影時の明るさに応じて、露出値(EV値)を手動で補正することができます。逆光での撮影、間接照明の室内、背景が暗い場合の撮影などに利用すると、より良好な画像が得られます。

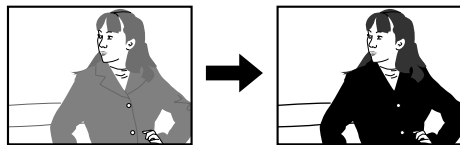
露出補正值 : -2.0EV~+2.0EV

補正単位 : 1/3EV

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で下から2番目の項目(EVシフト)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で露出補正值を選ぶ
【▶】: +方向に補正。白い物の撮影や逆光での撮影に向きます。
※ベストショットの“逆光”も便利です。



【◀】：一方向に補正。黒い物の撮影や晴天の野外などの撮影に向きます。



露出補正値を元に戻したいときは、反対方向に露出補正して“0.0”に合わせてください。

4. 【SET】を押す

露出値が補正されます。
次に露出補正を変えるまで、
設定した露出補正値で撮影
できます。



露出補正値

重要

- 明るすぎたり、暗すぎたりするときは、露出補正ができない場合があります。









参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、露出補正することもできます(34、159ページ)。
- 測光方式をマルチパターン測光(画面全体を分割し、それぞれのエリアの測光データを元に露出を決めます)に設定しているときに露出補正を行うと、測光方式が自動的に中央重点測光(中央部を重点的に測光します)に切り替わります。露出補正値を“0.0”に戻すとマルチパターン測光に戻ります(79ページ)。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで露出値を補正することができます(84ページ)。ヒストグラム表示(83ページ)を確認しながらの撮影に便利です。

色合いを変える(ホワイトバランス)

曇りの日に写真を撮ると被写体が青っぽく写ることがあります。また白色蛍光灯の光で撮ると被写体が緑がかって写ることがあります。このような現象を防ぎ、光源に合わせて被写体を自然な色合いで撮影できるように調整する機能がホワイトバランスです。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で下から3番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で撮影条件を選び、【SET】を押す

| | |
|--|---|
|  オートWB | : 自動的にホワイトバランスを調整 |
|  太陽光 | : 晴天時の野外での撮影用 |
|  曇天 | : 薄雲～雨天の野外や木陰などの撮影用 |
|  日陰 | : 晴天時の、ビルや木の陰などの撮影用 |
|  N 昼白色蛍光灯 | : 白色・昼白色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用 |
|  D 昼光色蛍光灯 | : 昼光色蛍光灯下での色かぶりを抑えた撮影用 |
|  電球 | : 電球の雰囲気消した撮影用 |
|  MWB マニュアルWB | : その場の光源に合わせて手動で設定します。詳しくは「マニュアルホワイトバランスを設定する」(77ページ)を参照してください。 |

参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ホワイトバランスを変更することもできます(34、159ページ)。
- ホワイトバランスの“オート”では、被写体の中から白色点を自動的に判断します。被写体の色や光源の状況によってはカメラが白色点の判断に迷い、適切なホワイトバランスに調整されないことがあります。このような場合は、太陽光、曇天など撮影条件を指定してください。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでホワイトバランスを変更することができます(84ページ)。
- キーカスタマイズ機能で“オート”を選ぶときは、“**AWB**”(オートWB)を選んでください。

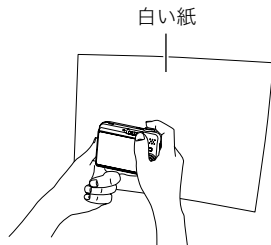
■ マニュアルホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの“オート”や太陽光、曇天など光源を指定する固定モードは、複数の光源下など難しい環境では調整できる範囲に限界があり、自然な色合いで撮れないことがあります。マニュアルホワイトバランスを設定すれば、さまざまな光源下で適正な色に調整することができます。マニュアルホワイトバランスを設定するために、白い紙を用意してください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で下から3番目の項目(ホワイトバランス)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で“**MWB** マニュアルWB”を選ぶ
液晶モニターには、前回設定したバランスで被写体が表示されます。この設定で使う場合は、手順5に進んでください。

4. 撮影場所で画面全体に白い紙を写した状態でシャッターを押す

“完了”と表示されたらホワイトバランスの調整は完了です。



5. 【SET】を押す
ホワイトバランスを決定し、撮影ができる画面に戻ります。
 - 設定したホワイトバランスは電源を切っても保持されません。

ISO感度を変える

ISO感度とは、光に対する感度を表したものです。数値が大きいほど感度が高くなり、暗い場所での撮影に強くなります。シャッター速度を速くしたいときにもISO感度を高めます。同じ撮影条件下ではISO感度を高くするとシャッター速度は早くなりますが、画像は多少ざらついた感じ(ノイズが増加した画像)になりますので、きれいに撮りたいときはなるべくISO感度を低くしてください。

1. 撮影モードにして【SET】を押す
2. 【▲】【▼】で上から6番目の項目(ISO感度)を選ぶ
3. 【◀】【▶】で設定内容を選び、【SET】を押す

オート : 撮影条件により自動調整します。

ISO 80 : 感度が低い

ISO 100

ISO 200

ISO 400

ISO 800 : 感度が高い



参考

- 【MENU】を押してメニュー画面を表示し、ISO感度を変更することもできます(34、159ページ)。

重要

- ISO感度を上げてフラッシュ撮影すると、近くの被写体の明るさが適正にならない場合があります。
- 動画撮影では、ISO感度がどこに設定されていても、常に“オート”に設定されます。
- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけでISO感度を変更することができます(84ページ)。

光の測りかたを変える(測光方式)

測光方式とは、被写体のどの部分の露出を測るかを決定する方式のことです。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“測光方式”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す



マルチ(マルチパターン):

画面の全体を分割し、それぞれのエリアについて測光します。測光結果の明暗パターンによって撮影環境をカメラが自動的に判断し、露出を決定します。さまざまなシーンで失敗の少ない露出が得られます。



中央重点:

中央部を重点的に測光します。カメラ任せではなく、自分である程度露出をコントロールしたいときに使います。



スポット:

センターのごく狭い部分を測光します。周囲の影響を受けずに、写したい被写体に露出を合わせることができます。



重要

- “マルチ”設定時にEVシフト(75ページ)を行うと、測光方式が自動的に“中央重点”に切り替わります。EVシフトを“0.0”に戻すと、元の測光方式に戻ります。
- “マルチ”設定時は、撮影モードの情報表示に戻ったときにアイコンが表示されません(157ページ)。

参考

- キーカスタマイズ機能を使うと、【◀】【▶】を押すだけで測光方式を変更することができます(84ページ)。

黒つぶれを軽減する(ダイナミックレンジ)

撮影される画像の明るい部分はそのままで、黒つぶれを軽減し、ダイナミックレンジを拡大したかのような撮影ができます。例えば、逆光で被写体が黒ずんでしまう場合などに、可能な限り黒つぶれを抑えて撮影することができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“ダイナミックレンジ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
拡大+2： “拡大+1”より黒つぶれが軽減されます。
拡大+1： 黒つぶれが軽減されます。
切： 黒つぶれの軽減は行いません。

参考

- 撮影済みの画像に対しても、同じようにダイナミックレンジを補正することができます(106ページ)。

人物の肌のざらつきを軽減する(美肌処理)

撮影される人物の肌のざらつき(ノイズ)を軽減します。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“美肌処理”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
ノイズ消去+2：“ノイズ消去+1”よりざらつきが軽減されます。
ノイズ消去+1：ざらつきが軽減されます。
切：ざらつきが軽減されません。

全体の色調を変える(カラーフィルター)

フィルター機能を使用して、撮影時の画像の色彩効果を変更することができます。色彩効果用のレンズフィルターを装着して撮影したような画像になります。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“カラーフィルター”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
設定できる内容：切/白黒/セピア/赤/緑/青/黄/
ピンク/紫

鮮明さを変える(シャープネス)

撮影される画像の輪郭の鮮鋭度を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“シャープネス”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(もっとも鮮鋭度が高い)から-2(もっとも鮮鋭度が低い)までの5段階から選べます。

色の鮮やかさを変える(彩度)

撮影される画像の色の鮮やかさを設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“彩度”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(色の鮮やかさがもっとも高い)から-2(色の鮮やかさがもっとも低い)までの5段階から選べます。

明暗の差を変える(コントラスト)

撮影される画像の明暗の差を設定できます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “画質設定”タブ→“コントラスト”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
+2(明暗がもっともクッキリする)から-2(明暗がもっとも平坦になる)までの5段階から選べます。

日付や時刻を写し込む(タイムスタンプ)

撮影時に画像の右下に、日付や時刻を写し込むことができます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “設定”タブ→“タイムスタンプ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す
例)2007年12月24日 午後1時25分
日付 : 日付(2007/12/24)が写し込まれます。
日付+時刻 : 日付/時刻(2007/12/24 1:25pm)が写し込まれます。
切 : 日付/時刻は写し込まれません。

重要

- タイムスタンプ機能を使用しなくても、DPOF機能を利用したり、印刷用ソフトの機能で、日付や時刻を入れてプリントすることができます(132ページ)。
- いったん画像に写し込まれた日付や時刻を変更したり、消すことはできません。
- 年/月/日の並び順は“表示スタイル”の設定(122ページ)にしたがって写し込まれます。
- 時刻の表示は“日時”の設定(10, 122ページ)にしたがって写し込まれます。
- タイムスタンプを設定して撮影すると、デジタルズームは働きません。
- 下記の撮影では、タイムスタンプは無効となります。
 - ベストショット撮影の一部(“オートフレーミング”、“名刺や書類を写します”、“ホワイトボードなどを写します”、“古い写真を写します”)
 - ズーム連写

露出を確認する(ヒストグラム)

液晶モニター上にヒストグラムを表示させることで、露出(光の量や明るさ)をチェックしながら撮影することができます。再生モードでは撮影された画像のヒストグラムを見ることができます。



1. 【▲】(DISP)を何度か押す(37ページ)

参考

- キーカスタマイズ機能で“EVシフト”の切り替えを【◀】【▶】に割り当てると(84ページ)、ヒストグラムを確認しながら【◀】【▶】で露出を補正して撮影することができます。

■ ヒストグラムの見かた

ヒストグラム(輝度成分分布表)とは、画像の明るさのレベルをピクセル数によりグラフ化したものです。縦軸がピクセル数、横軸が明るさを表します。もしもヒストグラムが片寄っていた場合は、露出補正(EVシフト)を行うと、ヒストグラムを左右に移動させることができます。なるべくグラフが中央に寄るように補正をすることによって、適正露出に近づけることができます。さらに静止画ではR(赤)、G(緑)、B(青)の色成分が独立したヒストグラムも同時に表示されますので、色ごとに「赤成分がオーバー」「青成分がアンダー」のように各色の分布状況も直感的に把握することができます。

典型的なヒストグラムの例

全体的に暗い画像は左寄りのヒストグラムになります。また、あまり左に寄り過ぎていると、黒つぶれを起している可能性もあります。



全体的に明るい画像は右寄りのヒストグラムになります。また、あまり右に寄り過ぎていると、白飛びを起こしている可能性もあります。



全体的に適度な明るさの画像は中央寄りのヒストグラムになります。



重要

- 撮影したい画像を意図的に露出オーバーやアンダーにする場合もあるので、必ずしも中央に寄ったヒストグラムが適正となる訳ではありません。
- 露出補正には限界がありますので、調整しきれない場合があります。
- フラッシュ撮影など、撮影したときの状況によっては、ヒストグラムによりチェックした露出とは異なる露出で撮影される場合があります。

撮影を補助するいろいろな機能

撮影モードでは、次のことを行うことができます。

- 【◀】【▶】キーに機能を割り当てる
- 撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する
- 撮影した画像を確認する
- 設定を記憶させる
- 各種設定をリセットする

【◀】【▶】キーに機能を割り当てる (キーカスタマイズ)

【◀】【▶】キーに以下の5つのうちどれか1つの機能を割り当てることができます。割り当てた機能は撮影モード時(静止画および動画)にいつでも使えるので便利です。機能の説明は参照ページをご覧ください。

- 測光方式: 光の測りかたを変える(79ページ)
- EVシフト: 明るさを補正する(75ページ)
- ホワイトバランス: 色合いを変える(77ページ)
- ISO感度: ISO感度を変える(78ページ)
- セルフタイマー: セルフタイマーの時間を設定する(51ページ)
- 切: 【◀】【▶】キーに機能を割り当てない

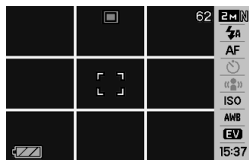
1. 撮影モードにして【MENU】を押す

2. “撮影設定”タブ→“左右キー設定”と選び、【▶】を押す

3. **【▲】【▼】**で割り当てる機能を選び、**【SET】**を押す
【◀】【▶】を押すだけで、割り当てた機能を使うことができるようになります。

撮影時に構図の目安となる基準線(グリッド)を表示する

撮影時、液晶モニターに方眼を表示します。カメラを水平や垂直に保つのに便利です。



1. 撮影モードにして**【MENU】**を押す
2. “撮影設定”タブ→“グリッド表示”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で設定内容を選び、**【SET】**を押す
入：グリッドを表示します。
切：グリッドを表示しません。

撮影した画像を確認する(撮影レビュー)

お買い上げいただいたときは、撮影直後の画像を液晶モニターで確認することができます。この機能を使えなくすることもできます。

1. 撮影モードにして**【MENU】**を押す
2. “撮影設定”タブ→“撮影レビュー”と選び、**【▶】**を押す
3. **【▲】【▼】**で設定項目を選び、**【SET】**を押す
入：撮影した画像が約1秒間表示されます。
切：撮影した画像は表示されません。

画面上のアイコンの意味を確認する (アイコンガイド)

撮影モード時に液晶モニター上でアイコンの意味を確認しながら操作することができます(157ページ)。




- アイコンの意味を確認できる機能は、次の通りです。
 - 撮影モード、測光方式、フラッシュ、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフト

ただし、測光方式、ホワイトバランス、セルフタイマー、EVシフトのアイコンの意味は、キーカスタマイズ機能(84ページ)を“測光方式”、“ホワイトバランス”、“セルフタイマー”、“EVシフト”に設定したときのみ表示されます。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“アイコンガイド”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入: 各種撮影機能を切り替えたとき、切り替えた機能を示すアイコンの近くに、アイコンの意味が表示されます。
切: アイコンの意味を表示しません。

重要

- アイコンガイドを“切”に設定すると、下記のアイコンも表示されません。
 - フラッシュモードの“A” (47ページ)
 - ホワイトバランスの“” (77ページ)
 - 測光方式の“” (79ページ)

各種設定を記憶させる(モードメモリ)

モードメモリとは、電源を切ったときでも直前の状態を記憶しておく機能です。電源を入れるたびに毎回設定をし直す手間がはぶけます。モードメモリで設定できる機能は、手順4の表の機能です。

1. 撮影モードにして【MENU】を押す
2. “撮影設定”タブ→“モードメモリ”と選び、【▶】を押す
3. 【▲】【▼】で設定したい機能を選び、【▶】を押す
4. 【▲】【▼】で設定内容を選び、【SET】を押す

入: 電源を切ったときにその時点の設定を記憶します。
切: 電源を切ったときに初期設定に戻ります。

| 機能 | 入 | 切 |
|-----------|-------|--------------------------|
| ベストショット※1 | 最後の状態 | ベストショット状態を解除 |
| フラッシュ | | オート |
| フォーカス方式 | | オート |
| ホワイトバランス | | オート |
| ISO感度 | | オート |
| AFエリア | | スポット |
| 測光方式 | | マルチ |
| セルフタイマー | | 切 |
| フラッシュ光量 | | 0 |
| デジタルズーム | | 入 |
| MF位置 | | MF(マニュアルフォーカス)に切り替える前の位置 |
| ズーム位置※2 | | ワイド端 |

※1 “入”の場合は前回の選択シーンとなり、“切”の場合は通常の静止画(オート)になります。

※2 ズーム位置では光学ズームの位置だけを記憶します。

重要

- モードメモリの“ベストショット”の設定を“入”にした場合に電源をオン/オフすると、“ベストショット”以外のモードメモリの設定が入/切のどちらに設定されていても、撮影設定はベストショットの各シーンの初期設定値となります。ただし、“ズーム位置”だけは記録されています。

各種設定をリセットする

本機の設定内容を初期値(ご購入直後の設定)に戻すことができます。初期値については「メニュー一覧表」(159ページ)をご覧ください。

1. **[MENU]**を押す
2. “設定”タブ→“リセット”と選び、**[▶]**を押す
3. **[▲]****[▼]**で“リセット”を選び、**[SET]**を押す
 - リセットしない場合は“キャンセル”を選びます。

重要

- 下記の項目は、リセットしても初期値に戻りません(160ページ)。
 - ホームタイムの詳細設定
 - ワールドタイムの詳細設定
 - 日時設定
 - 表示スタイル
 - Language
 - ビデオ出力